

平成31年1月15日

南の風第85回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会

～ 女子決勝特集号 ～

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

1月13日（日）さいたまスーパーアリーナで行われた、第85回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会ファイナルラウンド女子決勝の特集号です。

決勝に勝ち上がったのは、6連覇がかかる JX-ENEOS サンフラワーズ対、6年ぶり2回目の優勝を目指すトヨタ自動車アンテロープスの戦いとなりました。

見所の一つは、トヨタが JX の 10 番渡嘉敷、52 番宮澤をどう抑えるか、また JX の速攻からの合わせをどう止めるかです。また、トヨタとしては、12 番三好、15 番安間の 3P シュートの確率がどの程度上がるか、2 番長岡、0 番エプリンのシュート（ドライブ&ジャンプシュート）の決定率、がどうか、というところです。（エプリンの 3P シュートも見逃せません。）

1Q です。トヨタ 2 番長岡の、積極的なドライブからのターンアラウンドシュートが決まりトヨタが先制します。JX はすぐさま速い展開から 11 番岡本が、3P シュートを沈めます。トヨタはすかさず 15 番安間のスピード豊かのドライブインで得点します。その後 JX は 10 番渡嘉敷のロングシュート、33 番梅沢のミドルシュート、トヨタは 2 番長岡のドライブからのバックシュートやターンシュート、0 番エプリンのフリースロー（宮澤のファウルによる）、13 番馬のミドルミドルシュートが入り一進一退となります。《トヨタ 11 対 JX7》

その後 JX は 10 番渡嘉敷のミドルや、11 番藤岡のミドルシュートやドライブインが決まります。トヨタは、0 番エプリンがリバウンドパスからのミドルシュートを決めます。《トヨタ 15 対 JX13》

ここで JX 1 回目のタイムアウトをとり 12 番吉田を投入します。タイムアウト直後、11 番岡本が 3P シュートを沈めます。トヨタはすぐさまピック&ロールから 15 番安間のジャンプシュートで流れを渡しません。残り 1 分 55 秒で JX がエンドスローイン（吉田から渡嘉敷へのナンバープレイパス）から得点します。さらにリバウンドからの速攻で 10 番渡嘉敷のゴール下シュートが決まります。トヨタは 0 番エプリンが右 45° から積極的なドライブを仕掛け、宮澤のファウルを誘いフリースローです。2 本とも沈め JX に食らい付きます。

このあとのワンプレイが流れを JX に引き寄せます。リバウンドを取った渡嘉敷から吉田へのパス、そして走っていた宮澤への素早いパス、宮澤の 3P シュート、たまたまトヨタ 15 番安間がファウルします。バスカンとなりフリースローも沈め、このゲーム最大の差がつきます。《トヨタ 19 対 JX24》1Q が終了します。

流れは JX に傾きかけます。リバウンドからの速攻が立て続けにできますが、フィニッシュに至らず完全に流れを呼び込むことはできませんでした。しかし、シーソーゲームの中、『この速攻一本』を 5 人が瞬間的に意識し、一気にボールをシュートエリアに運ぶプレイはさすがでした。トヨタは、渡嘉敷のペイントでのフレイに対しては、寄りを早くしたダブルチームで対応ができていましたが、速い展開の中では、どうしても抑えきれない場面がありました。また、1Q の中盤までは、シュートの精度が安定していたのですが、徐々に確率が落ち得点が伸びませんでした。